

低コストで
斜面防災

「無水掘工法」普及へLPLP

採用への比較・検討支援

オーナーシステム

オーナーシステム(大阪市東淀川区、永見博希社長)は、低コストの斜面防災工法である「無水掘工法」の普及に向けて、有限責任事業組合(LLP)の「無水掘工法設計比較・検討支援事務所」を設立した。全国各地に設けられている同工法協会を束ねる「全国無水掘工法評議会」のメンバーを中心にLLPへの参加を呼びかけ、普及を後押しするための技術的な支援を行っていく。

無水掘工法は、ロックアンカー・ロックボルトを利用した斜面防災工事での削孔システムとして開発された。超高压のエア削孔技術を用いるこ

量マシンを使うことにより、仮設足場経費の大幅削減や工期短縮も可能となる。

従来工法に比べると、コストを34%削減し、工期を32%短縮できるという同工法は、国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)の「活用後評価情報」に認定登録済み。

NETISに登録された技術について国交省の「設計業務共通仕様書」ではこれまで、「受注者では、新技術・新工法の積極的な活用を検討する」と規定されていたが、08

年4月以降はこれが改正され、評価情報については「必ず比較検討する」となった。これにより、無水掘工法の適用が進むことが期待されている。

ただ、同工法の採用で大幅にコストダウンが可能になると、積算額が減額となり、受注者の利益を圧迫するのではないかと懸念から、普及の足かせになることも想定される。

そこで新たに設置されたLLPでは、開発者責任の下で、新技術活用への適応検討を支援していくことにした。

永見社長は「真の発注者である国民(納税者)の視点に立ち、無水掘工法の普及を通じて、安全で安心は国土の実現に貢献していきたい」と話している。